

# 教育に関する事務の管理及び執行の 状況の点検及び評価の結果報告書

(令和4年度対象)

令和5年7月

半田市教育委員会

# 目 次

はじめに	1
1. 本市教育委員会における実施方法	2
(1) 目的	
(2) 点検・評価の対象	
(3) 点検・評価の構成	
(4) 点検・評価の方法及び経緯	
(5) 議会への報告・市民への公表	
2. 学識経験者による意見	4
3. 施策の評価 ～ 令和4年度を振り返っての施策の評価 ～	6
4. 令和5年度教育委員会主要施策点検・評価表	13
5. 資料集（事業概要）	別冊

## はじめに

平成19年に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され（平成20年4月1日施行）、各教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成して議会に提出、公表することとされました。

このことに基づき、市教育委員会では、平成20年12月から「教育委員会の点検・評価」を実施し、その結果に関する報告書を市議会に提出するとともに公表してきました。今回は令和4年度の主な施策・事業が着実に実施されているか、また、効果的に行われているかなどについて、教育委員会自らが点検・評価を行いました。

本報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定に基づき、令和4年度の教育委員会の点検及び評価を行い、教育に関する2名の学識経験者の方々の意見をいただいで作成したものです。

### ○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

**第26条** 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

**2** 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## 1. 本市教育委員会における実施方法

### (1) 目的

本市の教育行政の充実に資するとともに、市民への説明責任を果たすことを目的とします。

### (2) 点検・評価の対象

令和4年度に実施した教育委員会所管の主な施策・事業を対象としています。

### (3) 点検・評価の構成

- ア 令和4年度の実施状況
- イ 実施状況に関する成果、課題、自己評価
- ウ 課題への対応、今後の目標
- エ 学識経験者による外部評価

### (4) 点検・評価の方法及び経緯

- ア 教育委員会において点検・評価表を作成し、対象とした施策・事業ごとに自己評価を行うとともに、実施状況及び成果を明らかにし、課題等を分析して、今後の対応の方向性を示しました。
- イ この点検・評価について、客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有するの方々のご意見をお聞きする機会を設け、ご意見、ご助言をいただくとともに、各施策・事業について外部評価をしていただきました。

氏 名	所 属 等
林 克 次 (はやし かつじ)	元日本福祉大学 非常勤講師
浅 田 謙 司 (あさだ けんじ)	名古屋学芸大学教職課程 ヒューマンケア学部 特任教授

(敬称略)

ウ 点検・評価表の評価欄の基準内容は次のとおりです。

評価記号	評価基準
S	妥当性・効率性・有効性に優れ、十分な成果が上がっている
A	妥当性・効率性・有効性に優れ、改善の余地はあるが成果が上がっている
B	成果を上げるため改善する必要がある
C	成果が上がっておらず、抜本的改革が必要である または、特別な事由などにより、実施することができなかった
D	成果が上がっておらず、事業の廃止検討の必要がある

#### エ 点検・評価に関わる会議開催状況

令和5年7月11日（火） 外部有識者に事業等の取組みを説明し、意見・提言・評価をいただきました。

令和5年7月25日（火） 定例教育委員会で協議し承認を得ました。

#### (5) 議会への報告及び市民への公表

令和5年8月23日（水）に議会へ報告します（議員に配布、全員協議会で説明）。その後、報告書を半田市教育委員会のホームページに掲載して、市民へ公表します。

## 2. 学識経験者による意見

点検・評価にあたり、教育に関し学識経験者の知見の活用を図るため、林克次 氏、浅田 謙司 氏よりご意見、ご助言をいただきました。主な内容は、次のとおりです。

### 【全体】

いじめ・不登校対策であったり、特別支援教育や切れ目のない支援体制であったり、一人一人を大事にする教育に取り組んでいることが伝わり、子どもたちへの愛を感じた。

市民の皆さんが、生涯に渡って学習し、よりよい自己実現に向けた日々を送ることができる半田市であるために、市役所のネットワークを意識し、子育てや福祉関係など、全庁的に様々な分野がお互いに手を取り合いながら、学びにとどまらず人格を高められるような政策を継続的に打ってほしい。

### 【学校教育課】

ICT 教育においては、教員の機器の活用能力によって学びの機会が大きく左右されないよう、学校ヘルプデスクや ICT 支援員による支援や研修会の開催により、今後も全体的な能力の向上を期待する。また、チャット GPT への対応についても、今後の検討課題としてほしい。

医療的ケア児に対応する看護師の配置、LGBTQ の児童生徒への環境整備など、特別な支援を要する児童生徒へ丁寧に対応できている。

### 【学校給食センター】

アレルギー対応手引について、作成にあたって学識経験者だけでなく保護者や PTA を巻き込んでいる点を評価する。今後、いい意味で一人歩きしていくことが期待できる。

地産地消などの食育の推進のためには栄養教諭の役割が重要であり、新学校給食センターが稼働して配置基準が減ったとしても、子どもたちに影響が出ないよう工夫してほしい。

### 【生涯学習課】

まちなかでアートや畳でコンサートといった新たな発想による事業は、市民目線や子ども目線がないとできないことであり、「誰でも」「いつでも」「どこでも」を実践し、身近な場面で文化芸術に触れることができる事業として非常に高く評価できる。

まなびとゼミは、まさに生涯学習という視点から見てもふさわしい取り組みであるため、課題もあるようだが、講師の方の P R や受講した市民の方の感動が伝わるような発信により、輪が広がっていくといい。

### 【スポーツ課】

eスポーツは、若い世代で非常に脚光を浴びており、実際に体を動かしてスポーツに取り組めない人たちにも門戸を広げる可能性があるので、引き続き取り組んでもらいたい。

部活動改革について、半田市は約 20 年前から市内全地区にスポーツクラブを立ち上げて先駆的な取り組みを実施しているため、その経験を生かして進められるといい。

### 【図書館】

資料の分類シールを一部変更し、利用者の利便性を図る取り組みは一例に過ぎないが、今後も利用者目線で利便性の向上に取り組んでもらいたい。

目標値に達していない部分もあるが、全体としては電子図書館や学校との連携など工夫した取り組みが行われており、評価できる部分も多くある。

### 【博物館】

山車を始め、伝統のあるものをどう生かしていくかを大事にした事業展開ができています。

半田といえば山車文化であり、コロナ禍により苦勞することも多かったと思うが、令和 5 年度に開催される 6 年ぶりの山車まつりでは地域の思いを形にできるよう成功に向けて取り組んでいてもらいたい。

### 【新美南吉記念館】

庁舎の正面玄関を入ると、ロビーの 2 階のガラスにある「山車まつり」と「南吉生誕 110 年」のポスターが目飛び込んでくるように、半田市の文化財を素材にして、市民の暮らしの向上、生活の向上を目指して実践されていることが実感できる。

図書館同様成果があがっているように見えるが、目標値が高かったことにより自己評価が厳しいため、評価方法を検討してもいいのではないかと。

### 3. 施策の評価 ～令和4年度を振り返っての評価～

#### 【学校教育課】

##### ■主な取組みと成果

学習面については、タブレットを用いた学習が定着し、ヘルプデスクの設置やICT支援員の助言などバックアップ体制の充実や周知が図られたことにより、より効果的な活用が広がっている。

いじめ・不登校対策として、適応指導教室を増設し、不登校児童生徒の居場所を増やしつつ学校復帰を促した。また、SSW（スクールソーシャルワーカー）を本庁に配置することで各校への派遣が容易になるなど、更なる相談体制の整備を図ることができた。

医療的ケアが必要な児童生徒が安心・安全に地域の学校に通うことができるよう看護師及び介助員を配置して必要な支援を行った。

学校生活支援員や特別支援学級補助員を配置し、集団生活になじめない児童への個別支援や、授業中の学級補助等を行った。

新たな取組としては、学校プールの老朽化や管理コスト、児童生徒への専門的な水泳指導等を目的に、民間の室内プールを利用した水泳授業指導補助委託の準備を進めたほか、中学校の部活動改革に向けたガイドラインを作成した。

施設整備としては、校舎の老朽化による外壁や軒下のコンクリート剥離、落下の危険性のある学校について大規模な校舎外壁工事を実施し、事故防止及び児童生徒の安全確保に努めた。校舎改築事業としては、乙川中学校改築工事が完了し、令和5年1月から新校舎を供用開始、また、亀崎小学校改築工事の基本設計を行った。

##### □課題と今後の取組み

児童生徒数は減少しているものの特別支援学級に在籍する児童生徒は年々増加しており、支援内容も多様化していることから、在籍状況や学校事情を考慮し、引き続き必要な人員を配置して支援体制の強化を図っていく。

いじめ・不登校対策としては、相談支援体制のさらなる充実に取り組み、支援を必要とする児童生徒の早期発見・早期対応に努める。

学習面では、半田市における教育DXのさらなる推進を図りつつ、学習活動の一層の充実と主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善を行う。

施設面では、亀崎小学校の改築工事を進めるほか、各校においても大規模な保全工事を実施し、小中学校施設長寿命化計画に基づく施設整備を着実に進めていく。また、特別教室の空調整備を進める。

## 【学校給食センター】

### ■主な取組みと成果

食の安全を最優先とし、食中毒防止対策や新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策を徹底しながら学校給食の安定的な提供に努めた。

食物アレルギーを有する児童生徒に対しては、引き続き医師の証明を受けた「学校生活管理指導表」の提出を必須とし、保護者、学校関係者及び栄養教諭による面談を行うなかで、個別対応について丁寧な説明に努め、適切な指導を行った。また、食物アレルギー対応の向上に向けた組織的な体制づくりのため、4月に、学識経験者、学校関係者、保護者代表等で構成する半田市食物アレルギー対応委員会を設置し、市の学校給食における食物アレルギー対応の基本方針や具体的な対応について協議を重ね、令和5年3月に「半田市学校給食における食物アレルギー対応の手引き」にまとめ、公表した。

さらに、児童生徒の食への関心と地元への愛着を醸成するため、食材選定において産地を指定することにより、地場産物の積極的な使用に努めた結果、地産地消率を上げることができた。また、栄養教諭が学校を訪問し、学級活動の時間等を使って食に関する指導を実施し、食育の推進を図った。

一方、学校給食においても昨今の食材料費高騰の影響が懸念されたが、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、保護者負担を増やすことなく学校給食の質を維持した。

学校給食センターの運営に関しては、調理業務を民間委託し、経費の削減を図るとともに、専門業者による安心安全な学校給食の提供に努めた。なお、異物混入事故については、令和3年度末に調理業者及び食材納入業者宛てに通知した「食材に係る異物混入事故防止対策について」に基づき、発生の都度、原因や対策等を業者と協議し再発防止に努めたが、件数としては横這いであった。

新学校給食センター建設事業では、実施設計業務、建設予定地の樹木伐採工事及び敷地造成工事と、予定していた事業を遅滞なく完了することができた。

### □課題と今後の取組み

新型コロナウイルス感染症の5類移行により感染症対策は緩和されたが、今後も、食中毒の予防と併せ、衛生管理に特に留意し、安全で栄養バランスの取れたおいしい給食の提供を目指すとともに、引き続き地場産物の積極的な使用に努め、食育の推進を図っていく。

また、食材料費高騰の影響下における学校給食費については、現状と今後の見通しを考慮し、適切な負担金額や方法について協議していく。

加えて、食物アレルギー対応については、食物アレルギー対応委員会において課題の洗い出し等を行い、事故防止に向け取り組んでいく。

なお、新学校給食センター建設事業においては、建物建設工事に着手し、令和6年9月供用開始に向け、着実な進捗を図る。

## 【生涯学習課】

### ■主な取組みと成果

令和4年度は令和3年度に半田市として初めて策定した半田市文化芸術推進計画の計画初年度にあたることもあり、半田市として文化芸術分野の新たな一歩を踏み出した。計画目標の中で、「誰でも」「いつでも」「どこでも」気軽に文化芸術に触れられる、子どもの頃に多様な文化芸術に触れられる、そして市民が文化芸術を創り、愉しむことができるまちづくりを掲げており、それを実現していく事業の展開に努めた。

具体的にはこれまで雁宿ホールなど文化拠点施設での公演を中心とした文化芸術事業の展開としていたが、市民の皆様がより身近に文化芸術を感じられるよう「まちなか」でワークショップ・アートパフォーマンスを行う「まちなかでアート」事業への転換を図った。令和4年度は、観光施設（半田赤レンガ建物）や文化施設（旧中埜半六邸）などの他、市内の公園で「まちなかでアート」を実施し、事業当日何気なくその場にきた人たちが参加しており、「誰でも」「いつでも」「どこでも」気軽に文化芸術に触れられる機会を創出することができた。また、従来から実施してきた事業に加え、市民の皆様が文化芸術に対する興味をもつきっかけづくりや文化・芸術分野の担い手の育成を目的とした事業（「プラハ・チェロ・リパブリック半田公演」、「ロビーコンサート」、「トゥインクルコンサート」、「あいち国際芸術祭の市町村巡回展示」、「ソーシャルインクルージョン・プログラム」など）を積極的に展開した。

所管する施設の維持管理運営の面では、地区公民館の1つである岩滑公民館の改築事業の建設工事が完了し、利用者にとって、安心・安全に利用できる施設として再スタートを切ることができた。また、今後改築事業を本格化させる成岩公民館の地域の方々の話し合いにも着手した。

### □課題と今後の取組み

「誰でも」「いつでも」「どこでも」気軽に文化芸術に触れられる事業として「まちなかでアート」事業の拡充を図っていく。また、子どもの頃に多様な文化芸術に触れられるまちづくりが半田市文化芸術推進計画に謳われていること、子ども向け・親子向けのイベントに対するニーズが高いことなどから、こうした事業の充実化を図っていく必要がある。既存の事業のブラッシュアップや実施回数の見直しを行うとともに、ワークショップなど体験型の要素を含んだ事

業を新たに展開していく。

なお、文化芸術への興味・関心まで達していない層や情報が行き届きにくい層も含めた多くの市民の皆様へ、本市が取り組む文化芸術の各種事業をより広く周知していくため、既存のチラシやHPに加えてInstagramなどのSNSを積極的に活用していく。併せてイベント内容に合わせて庁内の関連部署（子育て関連部署等）に対して周知依頼を行う。

老朽化が進む所管施設の長寿命化等については、今後成岩公民館の改築事業に本格的に着手するが、小学校敷地内での建て替えやより地域に根差した施設への転換を検討する初めてのケース（モデルケース）となる予定であり、地域や関係機関と綿密な調整を図り、地域に適した施設の在り方を検討していく。福祉文化会館や空の科学館などは、将来の活用ビジョン等を整理する中で適切な時期に施設の長寿命化等を図っていく。

## 【スポーツ課】

### ■主な取組みと成果

3年振りの開催となったはんだシティマラソン2022では、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、参加人数や規模を抑えることのできる新たな開催形式にチャレンジし、団体で出場し協力しながら完走を目指すリレー形式を主とした内容で開催した。

その他、大会や教室等の開催では、半田市スポーツ協会をはじめ、スポーツ関係団体と連携し、withコロナでのスポーツへの向き合い方を確立してきた。これにより、予定した事業を実施することができた。

また、総合型地域スポーツクラブやスポーツ推進委員と連携し、親子や高齢者向けのスポーツ教室や、高齢者や障がい者も参加できるイベントを開催した。半田福祉ふれあいプールでは新たにeスポーツ体験会を開催するなど、「誰でも、いつでも、いつまでも」スポーツに親しむことができる機会の創出に努めた。

実施の初年度となる大学地域連携スポーツ推進事業では、日本福祉大学と連携し各スポーツクラブへの指導者派遣を実施したことで、スポーツクラブの安定的な運営に寄与することができた。

スポーツ施設については、成岩地区総合型地域スポーツクラブハウス、半田運動公園、半田福祉ふれあいプールの適正な修繕・運営を実施し、利用者が安心・安全に利用できる施設を提供することで健康維持・増進へ寄与した。

また、指定管理者については高騰する光熱費の影響により施設の管理運営に支障が生じたため、施設指定管理事業補助金を交付した。

## □課題と今後の取組み

令和6年9月1日から施行される中学校の部活動改革に伴い、中学生のスポーツ環境の受け皿を整備していくことが重要であるため、その1つとして主要な立場である総合型地域スポーツクラブの抱える課題等の解決を目指し、大学や各関係機関と連携して支援を行う。

スポーツ施設については老朽化が進んでいく中、利用者が継続して安心安全に利用できるよう、適正な維持・管理を行い、改修等を遅滞なく計画的に実施していく。また、新総合体育館建設に向けては市民ニーズを把握しつつ、建設や運営等の課題に対し民間活用などの新たな手法の導入を検討していく。

さらに、2026年に愛知で開催されるアジア・アジアパラ競技大会に向けて機運醸成を図っていく必要がある。スポーツ推進計画の基本理念のうち、「どこでもスポーツに親しめるように」を推進し、スポーツに触れる機会の拡充を図るとともに、「みる」「する」「ささえる」スポーツの環境整備に努めていく。

## 【図書館】

### ■主な取組みと成果

コロナ対策を前年度から継続しつつも、行事や講座を概ね再開することができ、徐々にではあるが、参加者数も回復してきている。

館内においては、資料の分類シールを一部変更することで、より本を探しやすくし、利用者の利便性向上につながるサービスの計画・準備を進め、利用者のニーズにこたえるように努めた。また、第2次半田市子ども読書活動推進計画に基づき、寄付金を活用し人気シリーズを購入するなど、児童書をより一層充実させた。

電子図書館については、利用者層の幅を踏まえて997タイトルの資料を追加購入した。

## □課題と今後の取組み

コロナ収束に向けた生活環境の変化に対応するため、資料を効率よく利用できるための環境づくり及び安心して参加できる図書館行事をボランティア団体と行っていくことが必要になる。

その一環として、令和5年度から、インターネットで在架予約ができるサービスを開始するとともに、はんだ電子図書館の利用者を在勤在学にまで拡大させる。この他にも、電子図書館の周知、資料の充実を進めていく。また、新たな読書推進の担い手の育成にも努める。

高齢者や外国籍の市民など幅広い層に図書館を利用してもらえよう、他課と連携して図書館の利用促進を図る。

限りある資料の収容スペースを、利用状況をみながら資料整理して有効に活用していくとともに、郷土資料の収集に努め、地域情報の集約場所としての機能を維持していく。あわせて、郷土資料、貴重資料をデジタル化し、電子図書館での公開の準備を進めていく。

## 【博物館】

### ■ 主な取組みと成果

令和4年度は、引き続き適切なコロナ対策を行ったうえで、予定していた企画展や講座などを実施することができた。

博物館では、展示している本物の山車を活用し、山車組によるからくり人形やお囃子の上演を実施した。普段は祭礼時しか見ることのできないものを来館者に体感してもらい、市民の山車文化に対する理解や認知度を深めることができた。

また、企画展「知多半島の化石」では、県内外の博物館や関係機関から貴重な資料を借用し、展示することができた。期間中は記念講演会や体験講座など多くの関連イベントを実施した結果、近年では最も来館者数の多い（昨対比+6,661人）企画展となり、年間利用者数も、コロナ禍以前の平成30年度（95,961人）の92%まで回復することができた。

旧中埜家住宅では、新美南吉の童話作品イラストによる飾り付けや子ども用ワークシートの制作を行うことで、地域住民や子どもたちの旧中埜家住宅に関する認知度や理解の向上を図ることができた。

また、全国の祭り人が集まる全国山・鉾・屋台保存連合会亀崎大会では、半田の山車文化と令和5年10月に開催される第9回はんだ山車まつりを広くPRすることができた。

### □ 課題と今後の取組み

現施設は昭和59年に開館しており、建物及び設備の老朽化が進行している。現在は、安全確保や低下した機能回復を主に修繕を実施しているが、施設の長寿命化に加え、時代の変化や実情に合わせた機能とするための大規模改修工事を実施し、展示をリニューアルする必要がある。

企画展については、地域博物館の特性と学芸員の専門性を活かし、引き続き、資料を通じて地域の自然や歴史、民俗、芸術等について学ぶ機会を提供していく。また、収蔵資料の整理や調査研究を積極的に進め、その成果を展示に反映させていく必要がある。

今後も市民の財産である文化財を保存・継承していくことはもちろん、郷土資料の収集、調査、保存に加え、積極的な情報発信に取り組む。

## 【新美南吉記念館】

### ■主な取組みと成果

令和5年の新美南吉生誕110年に向けた取組みとして、主に2つの事業を実施した。

展示室一部リニューアル事業は、平成6年の開館以来ほとんど更新していなかった常設展示パネルの内容を一新し、ビデオシアターではストップモーションアニメごんの定時上映ができるように機器の改修を行った。展示パネルは読みやすく親しみやすくなり、子ども向け解説やQRコードからの英語・中国語翻訳により、多様な客層にも対応できるようになった。1月のリニューアルオープン後の入館者数は昨年度の91%増であり、生誕110年の話題性との相乗効果により、集客の実績を上げている。

ストップモーションアニメごん上映事業は、世界的に評価されている同作品を、生誕110年に入った1月から記念館内のビデオシアターで上映し（～令和6年3月）、あわせて撮影に使った小道具などを展示する企画展を開催した。アンケートや感想ノートから一定の集客効果と満足度向上に寄与したと認められる。

### □課題と今後の取組み

令和4年度に行ったビデオシアターの改修は、生誕110年限定でストップモーションアニメごんを上映するためのものであり、5年度末に再改修が必要になる。具体的には、新規に制作する番組1本と既存の2本の計3番組を選択して視聴できるようにする。

ストップモーションアニメごんを定時上映しているビデオシアターは、定員が16席のため、繁忙日には立見をしたり視聴を諦めたりする人も見受けられる。夏休みや彼岸花シーズンは会議室でも上映することで、少しでも多くの人に良い環境で視聴してもらえるようにする。また条件付きで館外でも上映できるため、他団体にも呼びかけ、市民の鑑賞機会を広げること努める。

令和5年度 教育委員会主要施策点検・評価表

	主要事業名	担当課	令和4年度に得られた成果、取組内容、課題及び自己評価			今後の取組・方向性	外部評価		
			評価	得られた成果	主な取組内容		課題	林	浅田
				予算額(千円)	決算額(千円)		執行率		
1	小学校校舎外壁改修及び屋根防水事業 中学校校舎外壁改修及び屋根防水事業	学校教育課	A	校舎の外壁改修を実施することで、建物の保全及び児童・生徒の安心安全な学習環境を確保することができた。	学校と密に調整することで、授業に大きな影響を与えることなく、予定どおり事業を完了することができた。	今後も予防保全の考え方にに基づき定期的に点検するなどして安心安全な学習環境を維持していく必要がある。	令和4年度をもって事業終結	A	A
				30,000	24,915	83.1%			
2	亀崎小学校改築等事業	学校教育課	A	今後、校舎等改築工事を進めていくための基本設計が完了した。	基本設計にて、実施設計に必要な地質調査や既存建物のアスベスト、PCB調査などを実施するほか、ワークショップを通して、近隣住民・児童とともに、将来の小学校について考えることができた。 学校と協力し、学校運営に必要な不可欠な平面計画として必要面積を絞り込むことができた。	令和6年度の改築工事着手に向け、具体的な工事費の積算のための実施設計を進め、適切な予算の作成計上が必要である。	令和5年度は実施設計を進めていくとともに、中棟の解体工事を実施する。その後、新校舎建設、グラウンド整備及び体育館の改修工事等を行い、本事業を終える。	A	A
				47,746	44,333	92.9%			
3	乙川中学校改築等事業	学校教育課	A	校舎及び武道場の更新を行うことで、生徒の安全安心の確保とともに学習環境の向上を図ることができた。	校舎及び武道場の建築を完了させ、予定どおり供用開始することができた。	今後の改築事業に生かすため、設計時点の構想と実際の使い勝手の違いなどを整理する必要がある。	令和5年度に旧校舎等の解体工事及びグラウンド整備等を実施する。	A	A
				2,918,287	2,906,527	99.6%			
4	ICT教育推進事業	学校教育課	B	GIGAスクール構想によるデジタルシテイズンシップ教育の定着など、DXの推進を図るため、ICT教育に精通した大学教授などを招き、半田市に導入すべき教育DXに係る調査研修を行うことができた。	専門家・有識者による教育DX報告会の開催回数は1回であったが、半田市におけるICT教育の現状を整理・分析するとともに、今後の方向性等について協議・検討することができた。	ICTを活用した学習のあり方や学習の多様化が進むなか、半田市に導入すべき教育DXに係る調査研修項目が定まっていない。	先進事例等に係る調査・研究を専門家のアドバイスのもと進め、ICT端末の安全・安心な活用の促進、学校のデジタル化・クラウド化の推進、先端技術の効果的な利活用について協議・検討し、半田市における教育DXのさらなる推進を図る。	A	A
				1,279	1,259	98.4%			

	主要事業名	担当課	令和4年度に得られた成果、取組内容、課題及び自己評価			今後の取組・方向性	外部評価		
			評価	得られた成果	主な取組内容		課題	林	浅田
				予算額(千円)	決算額(千円)		執行率		
5	小・中学校情報機器整備事業	学校教育課	A	令和3年度よりタブレットを用いた学習が始まり、ヘルプデスクの設置やICT支援員の助言などバックアップ体制の充実や周知が図られたことにより、タブレットの機能の有効性が浸透し活用が推進された。	国のGIGAスクール構想に基づき、小中学校における情報機器や通信ネットワーク環境の整備・運用、学習支援ソフトの配備等を適切に進めることができた。また、学校現場の困りごとを聞いたり、タブレット端末等のさらなる有効活用等について話し合う場として、令和4年度に未来創造協議会等を設置したことにより、より充実した学習環境を構築することができた。	保護者負担について検討する必要がある。また、教員の機器の活用能力の向上を図る必要がある。	引き続きICT教育に係る環境整備を進めるとともに、児童生徒のタブレット端末のさらなる利用促進を図る。	A	A
				264,073	256,998	97.3%			
6	コミュニティ・スクール推進事業	学校教育課	A	市内全小中学校の学校運営協議会を中心に、学校を核とした地域住民等の参画を得た取組みが実践されたことで、学校運営に欠かすことのできない地域の連携を図ることにつながった。	コロナにより活動が制限される中、学校と地域が連携・協働し、米作り体験授業(田植え、稲刈り等)や交通教室、家庭科の裁縫指導、ホタルの放流など、特色ある学校づくりを進めることができた。	地域によっては、推進委員の高齢化や協力者の人員不足を課題に掲げているため、人員確保対策を講じる必要がある。	地域に根差した特色ある学校づくりを進めるため、学校と地域の連携・協働体制のさらなる充実を図る。協力者の人員不足等については、保護者等に対し協力の呼び掛けなどを行っていく。	A	A
				7,107	6,280	88.4%			
7	日本語初期指導事業	学校教育課	A	日本語を話すことができない児童生徒が初期の基本的な日本語を理解し、学校生活へ早期適応が図られた。	対象となる児童生徒の日本語能力に応じて、「話す・聞く・読む・書く」の4技能をバランスよく指導したことにより、学校生活を送るうえで必要となる基礎的な日本語能力を身に付けさせることができた。また、定員に上限があったことや指導実施校までの保護者送迎が困難であったこと等により、対面指導を受けることができなかった児童生徒に対しては、オンラインによる遠隔指導を行った。	オンラインによる遠隔指導では、年齢が下がるにつれて、集中力の保持が困難であったり、指導が伝わりにくい傾向がある。より多くの児童生徒が、日本語初期指導教室で指導を受けることができる手段を確保する必要がある。	より多くの児童生徒が日本語初期指導を受けられることができるよう取り組み、当該児童生徒の学校生活への早期適応支援に努める。	A	A
				8,912	8,912	100.0%			

	主要事業名	担当課	令和4年度に得られた成果、取組内容、課題及び自己評価			今後の取組・方向性	外部評価		
			評価	得られた成果	主な取組内容		課題	林	浅田
				予算額 (千円)	決算額 (千円)		執行率		
8	いじめ・不登校対策事業	学校教育課	A	学校と教育相談員との連絡を密にすることで適応指導教室を利用し、学校復帰を促すとともに、令和4年度よりSSW（スクールソーシャルワーカー）を本庁に配置し、各校への派遣を容易にすることで、更なる相談体制の整備を図ることができた。	教育相談員を増員するとともに、支援関係機関との連携・協力を緊密に行ったこと等により、支援を必要とする児童生徒の心の安定や課題の解決に資することができた。	いじめ・不登校児童生徒が抱える問題が多様化しており、様々なケースに対応することが必要である。	相談支援体制のさらなる充実に取り組み、支援を必要とする児童生徒の早期発見・早期対応に努める。	A	A
				46,256	45,976	99.4%			
9	学校生活支援事業	学校教育課	A	新型コロナウイルス感染症対策に係る補助金を活用することで支援員の採用が可能となり、目標値よりも多い人数を確保することができ、各学校への配置人数を増やすことができた。その結果、支援を要する児童生徒へのきめ細やかな支援が可能となり、教員が授業や学級運営に専念できた。	学校生活支援員や特別支援学級補助員を適切に配置するとともに、学校長OB等の特別支援教育相談員による巡回指導等を行ったことにより、集団生活になじめない児童生徒等の安定した学校生活に資することができた。	現場からの増員要望は強いが、増員することは難しいため、研修等を実施することにより学校生活支援員等の個々の質を上げていく必要がある。	多様な児童生徒のニーズに応えることができるよう学校生活支援・指導の充実に取り組む。	A	A
				116,965	107,895	92.2%			
10	切れ目のない支援体制整備充実事業	学校教育課	A	看護師を配置して地域の学校に就学する医療的ケア児が保護者の付き添いなしで学校生活を送ることができるよう支援することで、保護者の負担軽減を図ることができた。また、拠点校以外へも看護師を派遣し、付き添っている保護者と支援の課題を共有するなど、個々の状態に合わせ支援することができた。	医療的ケアを必要とする児童生徒の在籍する学校に看護師や介助員を配置又は派遣したことにより、学校への付き添いが必要であった保護者の負担を軽減するとともに、当該児童生徒が安心して学校生活を送ることができるよう支援することができた。	今後は、医療的ケア児だけでなく、肢体不自由や性的マイノリティの児童生徒等に対する学校環境整備を図る必要がある。	今後も、必要に応じて、医療的ケアを必要とする児童生徒や肢体不自由、性的マイノリティの児童生徒等に対する支援充実を図る。	A	S
				10,977	8,886	81.0%			

	主要事業名	担当課	令和4年度に得られた成果、取組内容、課題及び自己評価			今後の取組・方向性	外部評価		
			評価	得られた成果	主な取組内容		課題	林	浅田
				予算額(千円)	決算額(千円)		執行率		
11	学校給食センター管理運営事業	学校給食センター	A	食中毒など重大な事故もなく、安心・安全な学校給食の安定的な提供ができた。	給食従事者の検便の定期実施、食材・水質検査等各種検査の実施により、食中毒の予防に努めた。また、調理場の老朽化した施設・設備の維持管理に努めたほか、害虫の駆除施工を行うなど、環境衛生の向上に努めた。	衛生管理の徹底を常に心がけ、食中毒の発生防止に努めているが、現センターは施設が古く、学校給食衛生管理基準を満たしていない。また、施設の老朽化に伴う突発的な修繕が毎年多数発生している。 第1センター(昭和45年開設) 第2センター(昭和51年開設)	衛生管理を徹底することで安心・安全な学校給食の提供に努めていく。また、施設の日常点検や迅速な修繕を行うことで、適切な施設・設備の維持管理に努めていく。	A	A
				98,694	94,841	96.1%			
12	学校給食食材購入事業	学校給食センター	A	安定的に安全で安価かつ良質な食材を調達することができた。 地元食材を積極的に使用することで、地元産消費率を向上させることができた。保護者負担を増やすことなく、給食の質や栄養価を維持して提供することができた。	給食物資の購入にあたり、見積もり合わせにより、安価でかつ安心安全なものを選定に努めた。 併せて産地を指定することにより、地元産食材の使用を推進した。 新型コロナウイルス感染症対策地方創生臨時交付金を活用し、物価高騰による食材費の増加分を補填した。	地元産食材は、安定的な量の確保が難しく、費用も高い。	保護者負担と食材費のバランスを適正に保ちながら、できる限り地元産食材の使用を進めていく。	A	A
				553,174	524,311	94.8%			
13	新学校給食センター建設事業	学校給食センター	A	実施設計を行い、詳細な建物等の図面の作成や工事費の算定をし、設計図書を作成することができた。 また、樹木伐採、敷地造成工事を行い、建設工事に着手できる状態となった。	実施設計、樹木伐採、敷地造成工事の実施。	建物建設を始め、各種工事が開始されるが、週休2日交代制工事の導入等、新たな試みもあるなか、打合せ等綿密に実施し、予定通りの工期で完了させなければならない。	工事実施にあたっては、関係機関と綿密に打合せを行い、確実に実施する。	A	A
				106,764	80,772	75.7%			

主要事業名	担当課	令和4年度に得られた成果、取組内容、課題及び自己評価			今後の取組・方向性	外部評価		
		評価	得られた成果	主な取組内容		課題	林	浅田
			予算額(千円)	決算額(千円)		執行率		
14 音楽のあるまちづくり事業	生涯学習課	A	<p>セントラル愛知交響楽団との協定に基づく各種事業は新型コロナの影響を受けることなく全て実施することができ、本市が従来から進める音楽のあるまちづくりを進めることができた。公演会事業として午前・午後の2部制で実施した「ガラコンサート」は、午前(三)を未就学児を含めた子どもが参加できる、参加しやすい工夫を凝らした内容(トムとジェリーの映像を使った演奏)とした。これにより半田市文化芸術推進計画に定める6つの基本目標の1つ、子どもの頃に多様な文化芸術に触れられるまちづくりの一助とすることができた。また、協定以外の事業として、「ブラハ・チェロ・リパブリック半田公演」を招へいし、セントラル愛知とは異なる音楽の世界に触れる機会を創出した。その他、「ロビーコンサート」や「トゥインクルコンサート」を実施し、市内で演奏活動等を行う方や団体等の発表の機会の創出や文化・芸術分野の担い手の育成を積極的に図ることができた。</p>	<p>◆セントラル愛知交響楽団との協定に基づく委託事業の実施          &lt;公演会事業&gt; 吹奏楽の響き in HANDA、ガラコンサート          &lt;アウトリーチ・ワークショップ事業&gt; 全13小学校でのアウトリーチ(4年生への授業)、幼稚園・保育園・こども園(2年で全園1回ずつ)、全5中学校でのワークショップ(吹奏楽部員に対する技術指導)          &lt;各種講座&gt; ガラコンサートレクチャー講座、ビギクラムはんだ(ワンコインコンサートを含め全7回)          &lt;その他提案事業等&gt; ちいさなコンサート、畳でコンサート～0歳からのクラシック～          ◆協定以外の事業の実施          ・ブラハ・チェロ・リパブリック公演          ・ロビーコンサート          ・私はピアニスト          ・文化活動全国大会出場者による特別コンサート(トゥインクルコンサート)</p>	<p>セントラル愛知交響楽団との協定に基づく事業では、一定のファン層の参加が定着してきたが、文化芸術への興味・関心まで達していない層や未就学児を連れていることで参加が難しい層をどう参加につなげていけるのか、参加できる事業にどう変えていけるのかが課題となる。          協定以外の事業も含めて、半田市文化芸術推進計画の基本目標には、子どもの頃に多様な文化芸術に触れられるまちづくりを謳っていること、また子ども向け・親子向けのイベントに対するニーズが高いことなどから、こうした事業の充実を図っていく必要がある。          なおこれらの課題に加え、従前から、本市が実施する各種事業の周知不足やそれに伴う集客力不足なども課題として挙げており、対応策を検討していく必要がある。併せて、情報が行き届きにくい層に対する周知方法を検討していく必要がある。</p>	<p>半田市文化芸術推進計画において、「まちなかでアート事業」と並行して「音楽のあるまちづくり事業」は重点施策として位置付けている。それを念頭に事業を展開するが、子どもの頃から文化芸術に触れられるまちづくりを進めていくことを計画の中で謳っていることから、特に子ども向け、親子向けの事業の充実を図っていく。具体的にはセントラル愛知交響楽団との協定に基づく事業ではニーズや満足度の高い「ちいさなコンサート」や「畳でコンサート」の実施回数を増やすとともに、公演会事業は子どもから大人まで楽しめる内容のコンサートの実施を予定する。また、協定以外の事業においても、文化芸術を見て・聞いて・肌で感じるができる体験型事業の充実を図るべく、ワークショップを取り入れた公演事業などを実施する。          なお、こうした事業の周知に関しては、従来のチラシやHPに加えInstagram等SNSを積極的に活用していく予定としており、若い世代、親子連れに情報が届く仕組みを充実させていく。併せてイベント内容に合わせて庁内の関連部署(子育て関連部署等)に対して周知の協力依頼を行う。</p>	A	S
			12,169	12,083	99.3%			

主要事業名	担当課	令和4年度に得られた成果、取組内容、課題及び自己評価				今後の取組・方向性	外部評価	
		評価	得られた成果	主な取組内容	課題		林	浅田
			予算額(千円)	決算額(千円)	執行率			
15 文化芸術普及推進事業	生涯学習課	A	<p>「まちなか」での文化芸術事業の展開をスタートし、半田市文化芸術推進計画に定める6つの基本目標の1つ、「誰でも」「いつでも」「どこでも」気軽に文化芸術に触れられるまちづくりの実現に向けた第1歩を踏み出すことができた。また、既存の事業実施に留まらず、愛知県や愛知県芸術劇場との連携・協力の中、あいち国際芸術祭の市町村巡回展示や社会包摂の視点をもちたソーシャルインクルージョン・プログラムを実施し、市民の皆様が文化芸術に対する興味を持つきっかけを多くつくることができた。</p>	<p>◆各種文化芸術事業の実施          ・まちなかでアート          ・ファミリープログラム          ・半田市美術展          ・アールブリュット展          ・ソーシャルインクルージョン・プログラム          ・あいち国際芸術祭巡回展示          ◆文化活動全国大会等出場者への激励金の支給          ◆半田市文化協会に対する事業費補助金の交付</p>	<p>雁宿ホールなどの文化拠点施設から「まちなか」での文化芸術事業の展開を重点化していくにあたっては、庁内他部署との連携の他、地域に根付く商店街など関係団体との連携・協力関係の構築が必要となる。          また、半田市文化芸術推進計画の基本目標には、子どもの頃に多様な文化芸術に触れられるまちづくりを謳っていること、また子ども向け・親子向けのイベントに対するニーズが高いことなどから、これまで県芸術劇場との連携で実施してきたファミリープログラム以外の事業の充実化を図っていく必要がある。</p>	<p>半田市文化芸術推進計画において、「音楽のあるまちづくり事業」と並行して「まちなかでアート事業」は重点施策として位置付けている。令和4年度から本格的にこの取組を開始したが、今後関係機関との連携・協力の中、市内のいたるところでの事業展開（拡充・拡大）を図っていく。          子ども向け、親子向けの事業の充実化については、ファミリープログラム以外に親子向け観劇会の実施を計画していく。なお、実施にあたっては、単に観劇の鑑賞にとどめず、体験型の要素も取り入れるため、親子で一緒に参加できるワークショップなども併せて実施できるプログラムを検討する。</p>	A	S
			5,942	4,870	82.0%			
16 生涯学習推進事業	生涯学習課	A	<p>従来からゲストティーチャーの活躍の場を充実させていくことが課題であったが、令和4年度から本格的にスタートしたまちなかでアートを始めとした文化芸術イベントなどで積極的に活用することができた。また、小中学校などで出前講座を実施する企業ゲストティーチャーによる市民向けの「ミツカンで学ぶ！～半田とおすしの深い関係～」を実施し、本市が取り組む「寿司」を活用した観光振興（まちづくり）に寄与した。</p>	<p>◆ゲストティーチャー制度の運用（企業ゲストティーチャー含む）          ◆各種生涯学習講座（イベント）の実施          ・まなびとゼミ          ・必要課題講座（企業ゲストティーチャー連携講座含む）          ・日本福祉大学共催講座          ・子ども科学体験教室          ・ものづくり教室</p>	<p>「まなびとゼミ」については、教えたい人が教え、学びたい人が学ぶという本来の講座の開講目的を尊重して実施していく必要があるが、ニーズとのミスマッチによる受講希望者の伸び悩み、開講講座のマンネリ化といった課題に対応する必要がある。          その他各種講座やイベントについても半田市生涯学習推進計画の重点項目である「市民一人ひとりのライフスタイルに合わせた学びを応援する」視点にたった内容で実施できるよう、ニーズの把握や社会情勢の把握に努めていく必要がある。</p>	<p>まなびとゼミについては、既存の開講形式を維持しながら、学びたい人のニーズに基づいた講座や本市が目指すまちづくりに関わる講座などを組み込んでいく。同時にまなびとゼミを開講するゲストティーチャーの活動の様子や内容をよりわかりやすく伝えるため、広報誌の作成の他、PR動画を作成する。          また、「学び直し」が着目される中、半田市生涯学習推進計画にも謳うリカレント教育の推進として、これまで実施してきた必要課題講座を見直し学びのきっかけ講座の充実化を図る。</p>	A	A
			730	599	82.1%			

	主要事業名	担当課	令和4年度に得られた成果、取組内容、課題及び自己評価			今後の取組・方向性	外部評価		
			評価	得られた成果	主な取組内容		課題	林	浅田
				予算額(千円)	決算額(千円)		執行率		
17	岩滑公民館改築等事業	生涯学習課	A	令和4年12月11日に竣工、同12日に供用を開始し、利用者にとって安心・安全に利用できる施設(岩滑公民館)として再スタートすることができた。改築を機に授乳室や図書コーナーを備えた交流ラウンジ、可動式間仕切りを設置した会議室などを整備し、多世代が気軽に足を運び多様な利用ができる公民館とすることができた。	令和4年度は令和3年度に引き続き建物の建設工事を進め年度内に完成した。それに合わせ、事業用備品・事務用備品を整備した。また、建物の改築に合わせ、施設北側の道路の整備も行った。	新しい建物となるため、当面施設の老朽化等への対応は不要となるが、予防保全の考え方に基づき定期的に点検するなどして安心・安全な施設環境を維持していく必要がある。	令和4年12月11日に竣工、同12日に供用を開始したため、改築事業としては令和4年度で終了した。今後、安心・安全に利用できる施設として管理運営を図っていく。	A	A
				213,190	211,150	99.0%			
18	総合型地域スポーツクラブハウス改修事業	スポーツ課	B	改修により、安心・安全なスポーツ施設として、施設利用者に快適な使用環境の整備ができた。	鉄骨・外壁の塗装及び浴場ろ過装置のタンク交換を行った。	利用者数について、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受けたR2年度と比較し、徐々に回復傾向にはあるが、感染症拡大前の利用者数(H30年度:65,946人)まで回復せず、目標を達成することはできなかった。	施設の老朽化による修繕を計画的に行い、繁忙期を避けた工事期間の調整や利用者に対する休館情報の周知を的確に行うことで、利用率に影響が少ない効率的な運営に努めていく。また、新規や固定の利用者を増やすために、指定管理事業者と定期的に打合せを行い、更なる利用者の増加に努める。	A	B
				96,646	94,525	97.8%			
19	大学地域連携スポーツ推進事業	スポーツ課	B	中学校部活動の地域移行に関する研修会の開催、ヒアリングによる各スポーツクラブの現状把握と課題整理、指導者派遣を実施し、各スポーツクラブの安定的な運営に貢献することができた。	直近の課題に対する研修会やヒアリングによる各クラブの状況整理、指導者派遣を行った。	各クラブの悩みである後継者確保や財源確保問題については、具体的な解決方法が見出せず効果があったとは言えない状況だった。	直近の課題では、中学生部活動の地域移行が各スポーツクラブの大きな課題となるため、指導者の確保や指導者養成に関する課題についても、対応してもらえるよう調整を図る。	A	B
				1,200	1,199	99.9%			

主要事業名	担当課	令和4年度に得られた成果、取組内容、課題及び自己評価			今後の取組・方向性	外部評価		
		評価	得られた成果	主な取組内容		課題	林	浅田
			予算額(千円)	決算額(千円)		執行率		
20 半田運動公園改修事業	スポーツ課	A	設計委託を行い消防法・建築基準法に合致する必要最低限の電力を確保できる発電機更新の設計を行うことができた。また、これまで地下にありメンテナンス性が悪かった設置場所を地上移し、メンテナンス性の向上と設置費用の削減を行うことができた。	設計委託を行い消防法・建築基準法に合致する必要最低限の電力を確保できる発電機更新の設計を行った。また、これまで地下にありメンテナンス性が悪かった設置場所を地上へ移し、メンテナンス性の向上と設置費用の削減を行った。	受電設備などに老朽化が目立つため、計画的に更新する必要がある。	二ーズや改修計画を踏まえ、劣化が進む運動公園施設を長寿命化計画に基づき整備を進めていく必要がある。	A	A
			2,035	1,210	59.5%			
21 半田福祉ふれあいプール管理運営事業	スポーツ課	B	利用制限が続く中で、引き続き利用者が安心安全に施設を利用することができた環境を整備することができた。	指定管理者が変わり新しい体制での運営の中、オリンピックの講演、eスポーツ体験などの開催により新たな顧客の開拓を行った。	施設利用者数の目標値が達成できなかった。	施設の老朽化による修繕を計画的に行い、繁忙期を避けた工事期間の調整や利用者に対する休館情報の周知を的確に行うことで、利用率に影響が少ない効率的な運営に努めていく。また、新規や固定の利用者を増やすために、指定管理事業者と定期的に打合せを行い、各種教室、クリスマス企画、幼児プール体験等のイベントを充実させ、利用者の満足度向上に努める。eスポーツ体験などプール以外の利用者の増進も図る。	A	B
			159,152	148,851	93.5%			
22 図書館一般事務	図書館	B	図書館事業参加者数の目標値9,000人には達しなかったものの、事業参加者数が増加(前年比+2,748名)した。	前年度に引き続き定員数を制限するなどのコロナ対策を取りながら、ボランティア団体と協働しほとんどの行事と講座を中止することなく実施できた。また、ボランティア養成講座を開催し、新たな読者推進の担い手の育成に努めた。	行事や読書推進の大きな担い手となっているボランティアの高齢化。また、世代や国籍の違い及び障がいの有無にかかわらず誰もが気軽に読書に親しめる環境づくりをより一層進めていく必要がある。令和5年度以降、減らしていた行事の定員を、元の定員に戻していく。	令和5年度の行事の開催回数を、令和6年度から開催数を増やせるよう計画を立てていく。また、事業以外にも、図書館資料の利用推進として、令和5年度から在架予約を開始し、利用者にとって使いやすい図書館となるよう努めていく。また、読書推進の担い手であるボランティアの育成に努める。	A	B
			6,784	6,483	95.6%			

主要事業名	担当課	令和4年度に得られた成果、取組内容、課題及び自己評価				今後の取組・方向性	外部評価				
		評価	得られた成果	主な取組内容	課題		林	浅田			
			予算額(千円)	決算額(千円)	執行率						
23 図書館資料整備事業	図書館	B	貸出冊数は、全国の図書館の動向と同じく減少したが、コロナ禍により減少していた来館者数や事業参加者数は回復しつつあり、市民への学びの機会や情報の提供を実施できている。特に、市内小中学校への資料提供(巡回文庫)の冊数、市内で活動する団体への貸出点数は増加している。	より分かりやすく本を探すための手段として、一分野の資料の分類シールを変更し、ピンポイントで本を探しやすくしサービス向上に努めた。第二次半田市子ども読書活動推進計画を進めるため、新刊購入の他に、調べ学習に役立つ本や、古くなった良書の買い替えに努めるなど、児童図書をより一層充実させた。 成年層へのアプローチは、電子書籍でビジネス関係や小説の購入を進めると同時に、図書資料は、購入金額の減少分を補うべく慎重に選書・購入を行った。	図書館の貸出冊数の減少は全国的にみられる事象となっており、当市でも例外ではなく、貸出点数が減少している。今後、貸出点数を如何に増やしていくかが課題である。	利用者のニーズに合った図書資料の整備に加え、効率良く本を予約・貸出できるよう電算システムの改善、電子書籍の利用拡大を図っていく。そのために、利用者を在学在勤に拡大するほか、朝読の時間などに学校タブレットで図書館の電子書籍が読めるよう、環境を整える。また、紙媒体での図書資料の提供の他、貴重資料のデジタル化、公開の準備を進め、時代にあわせた資料・情報提供ができるよう、知の情報基地としての機能の維持・拡張を行っていく。情報難民を生じさせないよう、あらゆる年齢層・国籍や障害の有無に影響されず、読書の機会を提供できるよう、他課とも連携しながら利用の促進を図っていく。	A	B			
			32,229	32,213	100.0%	24 山車ガイドブック作成事業	博物館	A	本市の誇る貴重な文化財である山車について広く市内外へ紹介するため、「はんだ山車まつり」にあわせて山車のガイドブックを作成した。	精緻な彫刻、絢爛豪華な刺繍幕等も紹介することで、山車そのものだけでなく歴史や文化を広くPRできるガイドブックを作成することができた。	山車の撮影に関し、山車組との調整が難しい。
2,540	2,397	94.4%	25 旧中笠家住宅保存活用事業	博物館	A				新美南吉の童話作品イラストによる飾り付けや子ども用ワークシートの制作を行うことで、地域住民や子どもたちの旧中笠家住宅に関する認知度や理解の向上を図ることができた。さらに、南吉生誕110年の広報や本市が郷土の歴史・文化を長年大切にしてきたまちであることにも触れ、まちへの関心向上にも寄与した。	令和4年度は、旧中笠家住宅のさらなる活用の一つとして外観を活かした活用を行うため、新美南吉の童話作品イラストによる飾り付けや子ども用ワークシートのデータ制作を行った。地域住民や子どもたちの当住宅に関する認知度向上が図られたとともに、子どもたちを始めとした文化財建造物初學者の方に、当住宅の見どころや見学のコツをわかりやすく伝えることができたようになった。	当住宅は、様々な制約により、多人数の受け入れや長期間の公開が困難であり、公開時期が限られるが、地域住民や子どもたちに対して、認知度や関心を高める必要がある。
497	490	98.6%									

主要事業名	担当課	令和4年度に得られた成果、取組内容、課題及び自己評価				今後の取組・方向性	外部評価	
		評価	得られた成果	主な取組内容	課題		林	浅田
			予算額(千円)	決算額(千円)	執行率			
26 全国山・鉾・屋台保存連 合会総会亀崎大会開催 補助事業	博物館	A	全国から多くの保存団体とそれを支援する地方公共団体が集まるため、これらの団体との交流を深めることができた。また、半田市制85周年及び令和5年10月に開催される第9回はんだ山車まつりを広くPRすることができた。	国の重要有形民俗文化財及び無形民俗文化財指定を受けた祭礼団体等で構成する全国山・鉾・屋台保存連合会及び祭屋台等制作修理技術者会との共催で、山車・屋台類の保護思想の普及啓発並びに祭屋台等の制作修理技術の練磨と後継者の育成を図るとともに交流を行い、地域文化の向上を目指すことを目的に、亀崎潮干祭保存会を中心に実行委員会が組織され、「全国山・鉾・屋台保存連合会総会亀崎大会」を盛大に開催することができた。	限られた時間内で亀崎潮干祭保存会や実行委員会、全国山・鉾・屋台保存連合会事務局との調整に労力を要する。	令和4年度で終了した事業である。	A	S
			3,000	3,000	100.0%			
27 企画展開催事業	博物館	A	「第37回知多工芸展」、企画展「知多半島の化石」、館藏品展「鈴木花蓑展」、「第37回友の会合同展」、「新収藏品展」の、年間5本の企画展・館藏品展等を開催した。	企画展「知多半島の化石」は、県内外の博物館や関係機関から貴重な資料を借用し、展示することができた。また、記念講演会や体験講座など、多くの関連イベントを実施した。期間中は、連日たくさんのお客さんで賑わい、近年では最も来館者数の多い企画展となった(昨対比+6,661人)。さらに、企画展を観覧した学校関係者から出前講座の依頼があるなど、企画展の開催が教育普及活動にもつながった。	何れの展示でも解説パネルやキャプションが難しい・分かりづらいという意見もあり、より分かりやすいものに改善していく必要がある。	引き続き、地域博物館の特性と学芸員の専門性を活かし、資料を通じて地域の自然や歴史、民俗、芸術等について学ぶ機会を提供していく。展示の内容を充実させるとともに、講演会や体験講座などの関連イベントを充実させることで来館者の興味関心を高め、生涯学習の推進と来館者の増加を図る。 また、収蔵資料の整理や調査研究を進め、その成果を館藏品展や常設展示に反映させていく。	A	A
			2,000	1,757	87.9%			

	主要事業名	担当課	令和4年度に得られた成果、取組内容、課題及び自己評価			今後の取組・方向性	外部評価		
			評価	得られた成果	主な取組内容		課題	林	浅田
				予算額(千円)	決算額(千円)		執行率		
28	新美南吉記念館展示室一部リニューアル事業	新美南吉記念館	B	令和4年度の入館者数は42%増、リニューアルを行った1月以降で見ると昨年度の91%増であり、生誕110年関連のイベントとともに展示リニューアルという話題を提供できたことで、集客の助けとなっている。	展示のデザイン・字体等を一新したことで、全体的に親しみやすく読みやすくなった。子ども向け解説やQRコードからの英語・中国語翻訳など多様な客層にも対応できるようになった。	今回のリニューアルは主に展示内容そのものに関わるものが多く、もっと写真映えのするスポットを求める声もあった。	ビデオシアターが現在生誕110年の特別仕様となっているため、今後継続して使用するための仕様に変更する必要がある。展示リニューアルの締めとして番組のボタン選択制を導入し、以前より利用しやすくする。展示パネルの刷新(はいたん終了したが、来館者の声をききながら、展示ケース内に手を加えるなどできる限りのフォローを行い展示の改善を行う。フォトスポットについては企画展などを通して、時々の特設のものを提供していく。	A	A
				12,763	12,603	98.7%			
29	ストップモーションアニメごん上映事業	新美南吉記念館	B	生誕110年にあわせた記念館の独自事業として、一般映画館で上映している本作品を当館で上映できることは、とても意義深いことであると自負している。入館料(中学生以下無料)で映画を鑑賞することができるので、映画館で観ることができなかった方、本作品を知らなかった方を含め、一定の集客効果、満足度向上に寄与した。	数々の賞を受賞し世界的に評価されているストップモーションアニメごんを多くの市民に鑑賞して頂く。館内のビデオシアターにてストップモーションアニメごんを上映(～令和5年度)し、記念企画展を開催する。	観賞者の評価が高く、喜ばれる一方で、上映する常設ビデオシアタールームの定員が16名のため、休・祝日や、記念館イベント開催時には、立見や鑑賞を諦める方もいる。せっかく記念館に来館したのに本作品を落着いて観ることができない状態も発生しており、多数の来館者であっても鑑賞できるような仕組みを工夫する必要がある。	令和6年3月までの限定権利のため、期間中に、より多数の方に観てもらえるようにする。団体入館者、イベント時等、多数の来館者が見込まれるときは、常設ビデオシアタールームだけでなく、会議室等で上映できるようにする。また、条件付きで館外上映も可能であるため、これらを利用して鑑賞できる機会を幅広くPRしていく。	A	A
				876	848	96.8%			